

元老院御中

第五百五十二號 明治八年十一月四日受付

一 讒謗律新聞條例ニ付建言

摘録

夫讒謗律新聞條例ハ文明諸國ニ行フ者ナレハ必ス良善ノ
法ナルニシ然レモ今マ日本ニ行ハントセハ其可ナルヲ知ラサルナリ如何ト
ナレハ彼文明諸國ノ如キ民會ノ設ケアツテ人民ノ思想ヲ發スルノ
地廣ケレハ讒謗等ノ律モ亦妨ケ無キニ似タリ然ルニ本邦未タ民
會ノ設ケナク驟ニ讒謗ホノ律ヲ設ケ發論ノ自由ヲ禁スルハ恐クハ
計ノ得タル者ニ非サルナリ云々 善ヲ惡トシ虚ヲ實トス是レ
ヲ讒謗ト云フ若シ惡ヲ惡トシ實ヲ實トス是レヲ讒謗ト云ヘカラス
又タ何ソ榮譽ヲ損セン蓋シ讒謗律ハ古人ヲ讒謗スル者ヲ罰ス
ルニ非ズシテ今人ヲ讒謗スル者ヲ罰スル爲ナルハ若シ古人ヲ讒謗

ル者ヲモ併セテ討スト云ハ春秋ノ褒貶董狐ノ直筆皆ナ罪人
ヲ免カレズ天下宣此理アラシヤ

西洋諸國ニ讒謗律

新聞條例アレハ其記スル所ヲ觀ルニ時事ヲ直書ニテ隱諱スル
コトナシ今本邦ニ於テ直書セント欲ハ讒謗律ニ觸ルノ恐レアリ
故ニ筆ヲ執ル者曲筆以テ法律ヲ避ルノ一途アルニ後世ハ華盛頓
ノ賢德ト路易第十四ノ驕傲トヲ知ルハ生時其言行ヲ記セシ者
アレハナリ若シ讒謗律ノ禁嚴ニテ當時ノ過失ヲ記スル能ハサレ
ハ天下ノ歴史ハ其實ヲ失ヒ路易第十四ト華盛頓ト同ニ賢德
ノ君タルニ至ラシ云々 高望族ノ品行醜陋ニシテ大ニ風俗ノ害
ヲ為スモ他ニ之ヲ警戒スルノ途ナシ若シ新聞公布等ニテ自戒
ヲ自慎マハ獨本人ノ幸ノミナラス國家ノ幸ナリ今世人ヲシテ
他人ノ過惡ヲ言フ能ハサラシメハ其過ヲ改ムナク遂ニ皇國
人民ノ品行ニ關ス云々 或人曰ク讒謗^律新聞條例ハ發

論ノ自由ヲ妨クルニ非ス猶發論ノ餘地アリト茂樹謂ラク然ラ
ス讒謗ホノ律ハ譬言ハ路上ニ彈機ヲ設クルカ如シ其彈機ハ物
之ニ觸ルニ非サレハ其機ヲ發スルナシ然レハ十歩ノ外人恐レ
テ近ツカス況ニヤ讒謗律等ニ於テヤ又タ西國ノ如キハ民權
已ニ伸張ス總ニ一端ヲ削ルモ之レカ為ニ盛衰スルノ患ナシ今マ
本邦ノ如キハ是ニ反ス云々 法律ノ崇ムヘキハ其公平ナルカ
爲ナリ然ルニ獨讒謗律新聞條例ニ至テハ他ノ法律ト平均ッ

法律ノ崇ムヘキハ其公平ナルカ

失フモノ、如シ彼ノ塚原某ト山科某トノ處置天下ノ民安シ
ソ其不平均ヲ疑ハサルヲ得ヘケンヤ 人民ノ不服ヲ訴
フルハ讒謗律新聞條例ヨリ甚シキハナシ伏シテ願クハ庶堂
ノ諸賢深ク之ヲ熟察シ縱令文明諸邦ニ行フノ法ナリトモ
國民ノ心服セサルモノハ姑ク之ヲ除キ他年立法議院ノ設
立ヲ俟テ行フ決シテ勉^キ非ナルナリ若シ之ヲ廢ス可ラスト

元 著 陽
只諛謗律中事實ノ有無ノ字ヲ消リ禁獄四討金ノ法ヲ
廢之國安ヲ擾動スル者ハ不應為ノ重ニ當テ其餘ハ輕キニ
當テハ國家ノ幸福ニハ

諛謗律新聞條例ニ付建言

文部省圖書出仕兼三等侍講
千葉縣士族

西村茂樹

讒謗律新聞條例ニ付建言

讒謗律新聞條例ノ出シヨリ世人之ヲ厭苦シ囂々不平ヲ鳴ラス者多シ新聞出版ノ事ハ國政上ニ於テ細事ノ如シト雖氏人心ノ向背ニ關係スルコト甚大ナレハ苟モ世ヲ憂フルノ心アル者ハ黙々トシテ已ムコト能ハサルナリ

夫讒謗律新聞條例ハ文明諸國ニ於テ之ヲ行フ者ナルベケレハ必ス良善ノ法ナルベシ然レモ是ヲ以テ直ニ今日ノ日本ニ行ハントセバ茂樹未タ其可ナルコトヲ知ラザルナリ其故何ゾヤ

彼文明諸國ノ如キハ國ニ國會アリ州ニ州會アリ邑ニ邑會アリテ人民ノ思想ヲ發シ言論ヲ吐クノ地甚廣デレバ讒謗等ノ律アルモ亦妨ナキニ似タリ況ヤ謗讒等ノ律モ亦人民ノ議シテ之ヲ定マル取ナルヲヤ本邦ノ如キハ未タ國會以下ノ民會アラズ然ルニ驟ニ讒謗等ノ律ヲ設ケテ人民發論ノ自由ヲ禁スルハ恐クハ計ノ得タル者ニ非ルナリ例ヘハ西家ノ主人ガ其子ヲ禁戒スル具ノ備ハレルヲ見テ東家ノ主人モ亦之ニ倣ハントスルカ如レ西家ノ如キハ其子ヲ教

育愛撫スルコト至テ厚ケレバ禁戒ノ具極メテ密ナリト雖氏亦辭セサル取ナリ東家ノ如キハ教育愛撫共ニ西家ニ及ハス唯禁戒ノ事ハ西家ノ所為ヲ學ハント欲ス豈謬マラスヤ善ヲ以テ惡トシ虚ヲ以テ實トス是ヲ讒謗ト云テ可ナリ此ノ如キハ真ニ人ノ榮譽ヲ損スル者ナリ若シ惡ヲ以テ惡ト為シ實ヲ以テ實ト為スハ是ヲ讒謗ト云フベカラス實ニ惡事ヲ犯シ實ニ陋行ヲ為ス者ノ如キハ唯醜名アルノミ何ノ榮譽カ之ヲ然レハ此ノ如キ輩ヲ指シテ惡

ト云ヒ陋ト云フモ何ソ榮譽ヲ損スルコトアラ
シ茂樹又謂ヘラク讒謗律ハ蓋シ古人ヲ讒謗ス
ル者ヲ罰スルニ非ズレテ今人ノ讒謗スル者ヲ
罰スル為ナルベレ夫人此世ニ在テ一息猶存ス
ルノ間ハ決レテ他人ノ讒謗ヲ受ルコトナク一
息既ニ絶スレバ罵詈謗議ヲ受クルモ避ルニ途
ナレ何ソ生者ノ幸ニレテ死者ノ不幸ナルヤ今
人ノ榮譽ハ惜ムヘクシテ古人ノ榮譽ハ惜ムベ
カラザルカ若レ古人ヲ讒謗スル者ヲモ併セテ
之ヲ罰スト云ハ春秋ノ褒貶董狐ノ直筆皆我

聖世ノ罪人タルコトヲ免カレズ天下豈此理
アラシヤ

西洋諸國ニハ讒謗律新聞條例アレハ西人ノ記
セル史傳記事ヲ觀ルニ時事ヲ直書シテ隱諱ス
ルコトナレ今本邦ニ於テ時事ヲ直書セントス
ルモ讒謗律ニ觸ルハ恐アリ成法ヲ誹毀スル
ノ罪ニ罹ルノ患アリ然レバ今ノ筆ヲ執ル者唯
曲筆以テ法律ヲ避ルノ一途アルノミ夫レ歴史
ノ要ハ其記スル形事實ヲ失ハザルニ在ルノミ
若レ虚謬ノ傳ヘバ歴史ナキノ勝レリトスルニ

若カス後世ニテ華盛頓ノ賢德ヲ知ルコトヲ得
ルハ華盛頓ノ生時ニ其言行ヲ記セシ者アレバ
ナリ路易第十四ノ驕傲ヲ知ルコトヲ得ルハ路
易第十四ノ生時ニ其言行ヲ記セシ者アレバナ
リ若シ讒謗律ノ禁嚴ニシテ當時ノ人ノ過失ヲ
記スルコト能ハサレハ天下ノ歴史ハ皆其實ヲ
失ヒ路易第十四ノ如キモ華盛頓ト同ク賢德ノ
君ト為ルニ至ラン若シ然ルキハ後世ノ史家何
ニ據リテ以テ信ヲ取ランヤ何ニ頼リテ古人ノ
善惡邪正ヲ知リ之ヲ師トシ之ヲ戒ムルコトヲ

得ニヤ

我邦教化ノ未タ普ネカラザル舊弊ノ未タ脱セ
ザル高位望族ノ輩其品行醜陋ニシテ大ニ風俗
ノ害ヲ為スベキ者アリ此輩已ニ高位望族ニ列
スレバ他ニ之ヲ警戒スルノ途ナレ若シ新聞公
布等ノ書ニ依テ已ノ過ヲ知リ自戒メ自慎マバ
此ノ如キ者既ニ之アリト聞ケリ獨本人ノ幸ノ
ミナラズ亦國家ノ幸ナリ今世人ヲ禁シテ一モ
他人ノ過惡ヲ言フコト能ハザラシメバ此輩傲
然トシテ自負シ其過ヲ改ムルコトナク遂ニ全

國人民ノ品行上ニ多少ノ感應ヲ生スルニ至ル
ヘレ夫人ノ過惡ヲ論スルハ固ヨリ厚德ノ事ニ
非スト雖氏其事ニ因リテハ道德上ノ深ク禁ス
ル所ニ非ス論語ニ子謂衛靈公之無道也孟子ニ
不仁哉梁惠王也トアリ今ノ律法ヲ以テ之ヲ照
サハ論孟ノ編者ノ如キモ亦全ク罪ナレト言フ
コトヲ得サルベレ
或人曰ク讒謗律新聞條例ハ人民發論ノ自由ヲ
妨クル者ニ非ス此律文ニ觸レザル所ニ猶發論
ノ餘地アリト茂樹謂ヘラク然ラズト讒謗等ノ

律ハ譬ヘバ四通ノ路上ニ大ナル彈機ヲ設クル
カ如シ彈機ノ性タル物アリテ之ニ觸レザレバ
固ヨリ其機ヲ發スルコトナレ然レモ彈機已ニ
路ニ當レバ十歩ノ外人恐レテ之ニ近ヅク者ナ
ク四通ノ道路一彈機ノ為ニ人行ヲ絶スルニ至
ラン况ヤ讒謗律等ノ文タル官吏ノ意ヲ以テ之
ヲ嚴ニスベク之ヲ寬ニスベキ者ナルヲヤ夫西
國ノ如キハ民權已ニ伸張レ根幹枝葉鬱然トレ
テ林ヲ成ス故ニ或ハ其一枝ヲ剪リ其一梢ヲ折
ルモ民權之ガ為ニ枯衰スルノ患ナレ本邦ノ如

キハ民権纔ニ萌芽ヲ生スルノミ然ルニ既ニ之
ヲ剪伐スルノ計ヲ為スハ恐クハ國家百世ノ利
ニ非サラン

法律ノ崇フベキ所以ハ其公平ナルガ為ナリ若
シ怒ニ乘レ法律ニ偏頗アラバ天下ノ蒼生ヲイ
カンセン新律綱領頒行以來刑罰總テ寛裕ニシ
テ大ニ泰平ノ氣象ヲ顯ハセリ然ルニ獨謔謔律
新聞條例ニ至テハ他ノ法律ト其平均ヲ失フ者
ノ如キハ何ゾヤ横濱新聞社編輯者塚原某ト京
都府士族山科某ト其犯ス所ノ罪ヲ觀ルニ心ヲ

以テ論スルモ跡ヲ以テ論スルモ誰カ山科ヲ重
シトシテ塚原ヲ輕シトセザラン然ルニ重シト
思フ者ハ其罰五圓餘ノ贖金ニ止マリ輕シト思
フ者ハ十月ノ禁獄百圓ノ罰金ヲ命ゼラル天下
ノ民安ゾ其不平均ヲ疑ハザルコトヲ得ンヤ
維新以來朝廷屢法度ヲ設ケテ人民ヲ制馭ス
レトモ人民ノ不服ヲ訴フルハ謔謔律新聞條例
ヨリ甚シキハナク人民ノ法律ニ觸ルハモ亦此
二律ヨリ多キハナシ然ラハ此二律ハ少シク苛
酷ニ近シト云フモ恐クハ誣言ニ非ルベシ茂樹

が朋友中苟モ文學ニ從事スル者ハ茂樹ト此歎
ヲ同フセザルハナレ伏レテ願クハ 廟堂ノ諸
賢遠ク視深ク察レ縱令文明諸國ニ行ノ取ノ法
律ナリトモ國人ノ心服セザル者ハ姑ク之ヲ除
キ去リ他年立法議院ノ設立セル後徐ニ議シテ
之ヲ行フモ決レテ晚キコトニ非ルベレ或ハ否
ラスンハ是ヲ元老院ニ付シテ詳ニ其得失ヲ議
セシメテ後施行スルモ亦可ナルベレ若レ讒謗
律新聞條例ハ已ニ著シテ律例ト為リ今之ヲ廢
スベカラズト言ハ、願クハ其甚レキ者ヲ去リ

讒謗律中事實ノ有無ヲ論ゼズノ無ノ字ヲ削リ
禁獄罰金ノ法ヲ廢シ 乘輿ヲ指斥シ國安ヲ擾
動スルニ類スル者ハ不應為ノ重キニ當テ其餘
ハ盡ク不應為ノ輕キニ當テハ實ニ民生ノ幸福
ニレテ亦 聖朝ノ幸福ナルベレ恐惶謹言

文部省四等出仕兼三等侍講

千葉縣士族

明治八年十一月四日

西村茂樹

西村茂樹

元老院御中

東京築地一丁目
十三番地寄留

四月

後官 長子 壬生 申利 秋月 移羽
修年 燕散 山口 吉井 杉倉 中宮
吉之助 子孫 可

幹事

庶務課長

或裁書期限之建言之類
 豈以手者有之收聽其可
 然我以此為
 如何也